

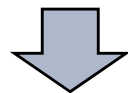
# 第 6 回渚滑川ほか 減災対策協議会

令和 2 年 7 月 9 日

**これまでの経緯**

# 減災対策協議会のはじまり

平成27年9月の関東・東北豪雨では、利根川水系鬼怒川の堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊・流失により大きな被害が発生。



社会全体で大規模な氾濫の発生に備える  
**「水防災意識社会 再構築ビジョン」**に取り組む

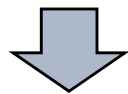
## 水防災意識社会 再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

**<ソフト対策>** ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

**<ハード対策>** ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



国、北海道、市町等からなる  
**「減災対策協議会」**を設置



オホーツク圏では国直轄の  
網走川・常呂川・湧別川・渚滑川  
流域で設置



第1回減災対策協議会開催  
(平成28年4月)  
おおむね5年で実施する取組を検討



# 水防法の一部改正について

平成28年8月には東北・北海道を襲った連続台風においても甚大な被害が発生したことから、協議会の取組をさらに加速させるため「大規模氾濫減災対策協議会」制度の創設をはじめとする水防法等の一部が改正され、おおむね5年で実施する取組の検討が将来にわたって検討し続けることになった。また、国だけではなく都道府県管理の全ての対象河川において、取組をとりまとめることになった。

- 大規模氾濫減災協議会の創設
- 市町村による水害リスク情報の周知制度の創設
- 要配慮者利用施設について、避難確保計画作成及び避難訓練の実施を義務化
- 国等の技術力を活用した中小河川の治水安全度の向上
- 民間を活用した水防活動の円滑化
- 浸水拡大を抑制する施設等の保全

「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」の実現

渚滑川を中心とした中小河川を含む水害リスクに対しては、以下の「目標」及び「目標達成に向けた3本柱」を設定している。

## ■ 5年間で達成すべき目標

渚滑川のほか中小河川も含む地域で発生しうる大規模水害に対し、「高速な洪水流から地域を守る」「迅速・確実な避難」を目指す。

## ■ 目標達成に向けた3本柱の取組

洪水氾濫を未然に防ぐ対策や、堤防決壊までの時間を少しでも引き延ばすための堤防天端保護などの危機管理型ハード対策等に加え、避難行動や水防活動などのソフト対策のみ重きを置いている。

### 避難行動のための取組

高速流や広範囲の浸水から人的被害を防ぐための  
迅速かつ確実な避難行動

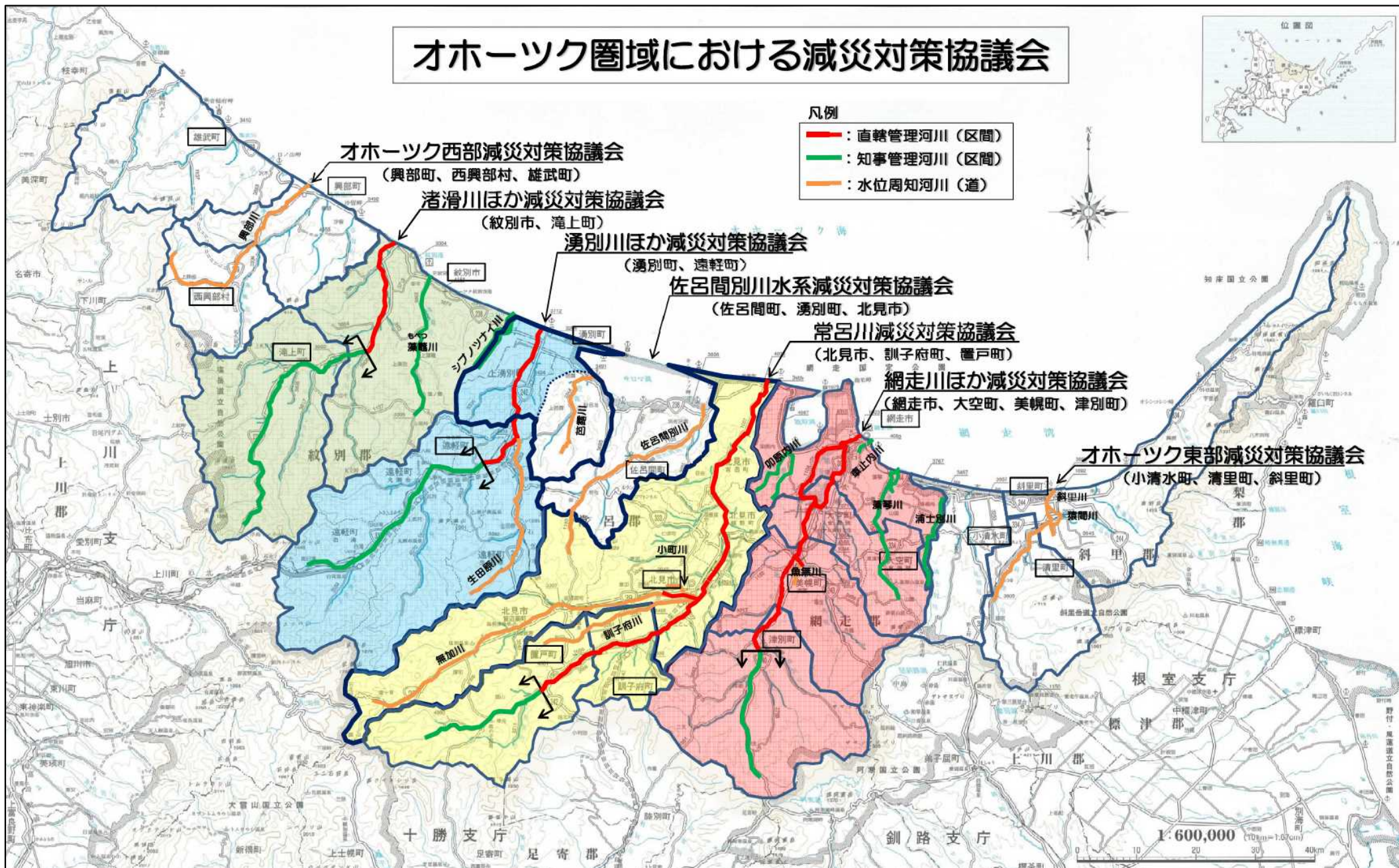
### 水防活動のための取組

河岸侵食や浸水被害を最小限にするための  
迅速かつ確実な水防活動

### 排水活動のための取組

交通途絶、社会経済活動の早期復旧のための  
効率的・効果的な排水活動

# オホーツク圏域における「7つの減災協議会」



# 幹事会報告

## 第9回幹事会

(令和2年2月25日)

- 令和元年度の取組フォローアップ
  - ・「関係機関からの取組内容報告」
- 令和2年度以降に取り組むべき事項
  - ・「R2年度以降の取組項目の確認」
- 情報提供ほか
  - ・ 水害リスクラインによる水位情報の提供
  - ・ 既存ダムへの洪水調節機能強化に向けた検討会議
  - ・ 令和元年東日本台風による被害状況
- 意見交換
  - ・ 関係機関の理解の深化を踏まえた資料作成等に関する意見交換



第9回渚滑川減災対策協議会  
幹事会開催状況

ほか



# 取組状況のフォローアップ

## ■ 迅速かつ確実な避難行動のための取組

- ・常呂川下流地区水害タイムライン試行版について情報提供



- ・防災ハンドブックの更新



(その他)

- ・住民がより理解しやすい情報となるよう洪水予報文を改良
- ・「水害リスクライン」による情報提供を開始  
<https://frl.river.go.jp/>

## ■ 迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ・洪水はん濫を未然に防ぐ対策  
河道掘削



- ・簡易型河川監視カメラの設置 (渚滑川水系: 8基)  
<https://k.river.go.jp/>



## ■ 迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ・重要水防箇所の共同点検を実施



紋別市

- ・上空から「ほっかい」による合同調査 (R1.6.24)



(その他)

- ・重要水防箇所の見直し
- ・関係機関主催の訓練等に参加

## ■ 効率的・効果的な排水活動のための取組

- ・災害対策用機械の操作訓練を実施



ポンプ車操作訓練



排水状況

## ■ 水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

・1日防災学校、北海道総合防災訓練を実施し、市町村主催の総合防災訓練に参加した。

○1日防災学校の実施(雄武町)



○北海道総合防災訓練(後期)の実施(紋別市)



○市町村主催の総合防災訓練への参加(紋別市)



## ■ 水防活動体制の強化

・ポスター掲示やリーフレット配布を通じ、水防活動の担い手となる水防団員(消防団員)の募集を行った。



⇒R2年度以降も引き続き、継続実施する

■洪水氾濫を未然に防ぐ対策

- ・鴻輝川で河道整備を実施。
- ・シブノツナイ川で堤防整備を実施。(完成)
- ・藻鱈川、鴻輝川、中渚滑二十五線川、サクルー6号川で伐木等を実施。

藻鱈川実施前



藻鱈川実施後



⇒R2年度以降も引き続き、継続実施する

■監視体制の強化

- ・水害リスクの高い箇所に危機管理型水位計を設置。
- ・水害リスクの高い箇所に簡易型河川監視カメラを設置。

危機管理型水位計

- 紋別市 6箇所 ウツツ川、清瀬川、鴻輝川  
渚滑古川、シブノツナイ川、中ノ沢川
- 滝上町 2箇所 渚滑川、サクルー川

簡易型河川監視カメラ

- 紋別市 2箇所 清瀬川、藻鱈川
- 滝上町 3箇所 渚滑川、サクルー川、シュウトルマップ川



危機管理型水位計 サクルー川(H30)



簡易型河川監視カメラ 清瀬川(R1)

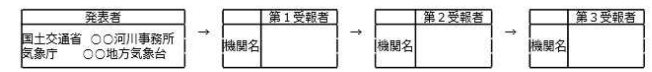
■排水活動も体制強化

- ・渚滑川ポンプ排水訓練に参加。



## ■ わかりやすく、切迫感の伝わりやすい情報となるよう、洪水予報文の改良、気象情報発信時の「危険度色分け」・「警報級の現象」やメッシュ情報等の改善

- 「避難勧告等に関するガイドライン」改定に伴い、より住民が理解しやすい情報となるよう洪水予報文を改良しました。
- 自主避難や各市町の適切な避難情報発令のため、リアルタイムでの大雨の「危険度分布」に洪水浸水想定区域等を重ね合わせた表示に更新しました。



発表者: 国土交通省 〇〇河川事務所 気象庁 〇〇地方气象台 → 第1受報者: 機関名 → 第2受報者: 機関名 → 第3受報者: 機関名

**正規** ○〇川氾濫危険情報

〇〇川洪水予報第〇号  
洪水警報  
平成〇〇年〇月〇日〇時〇〇分  
〇〇河川事務所・〇〇地方气象台 共同発表

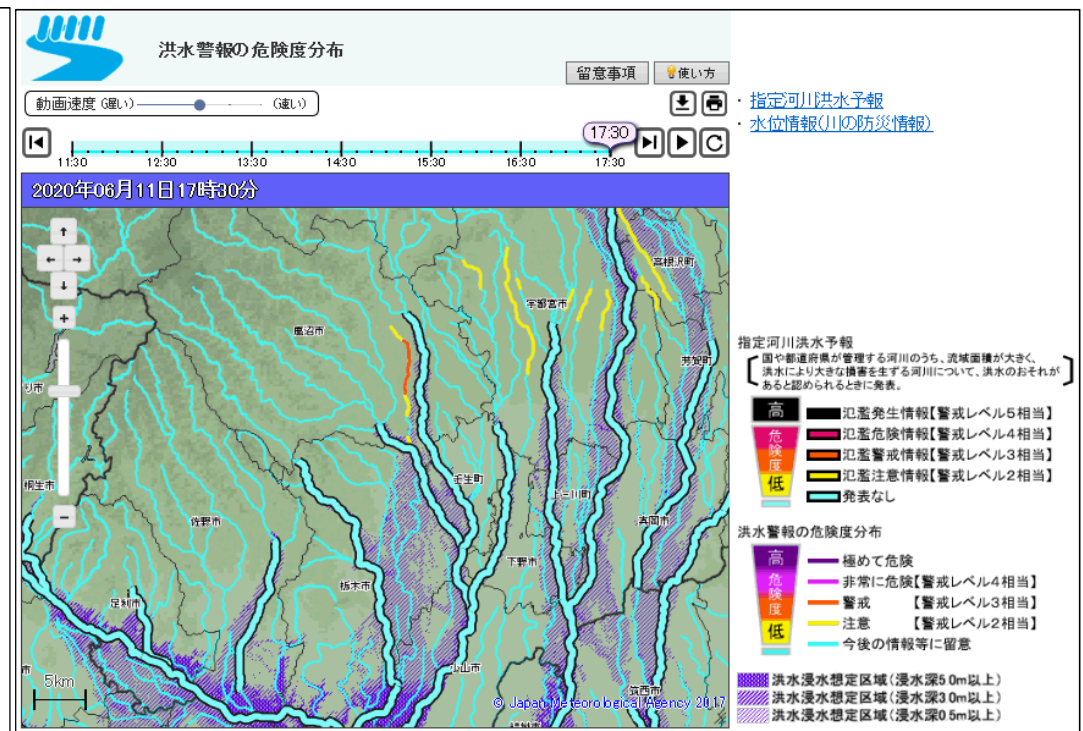
(見出し)  
見出しの冒頭に追加  
【警戒レベル4相当情報「洪水」】〇〇川では、氾濫危険水位(レベル4)に到達し、氾濫のおそれあり

(主文)  
主文冒頭にも追加  
主文には「...相当情報「洪水」」と明示するが、主文では簡略化(下線部省略)  
1文に記載するレベルは1つにする

レベル下降時はその旨を追記する  
【警戒レベル2相当に引下切】〇〇川の〇〇水位観測所(〇〇市〇〇)では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に、避難準備・高齢者等避難開始等の発令の目安となる「避難判断水位(レベル3)」を下回り、今後、水位は下降する見込みですが、引き続き、洪水に関する情報に注意して下さい。

レベル2を下回る時(全解除)は何も追加しない  
〇〇川の〇〇水位観測所(〇〇市〇〇)では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に、「氾濫注意水位(レベル2)」を下回りました。

洪水予報文の改良



大雨の危険度分布図

- 氾濫発生前に避難行動を促すための情報伝達訓練を実施し、訓練を通じて避難勧告等の発令に着目したタイムラインを改良や多機関が連携したタイムラインの作成

- 他河川タイムライン検討会に参画しました



⇒R2年度以降も引き続き、継続実施します



## ■ 町内会等による住民参加型避難訓練や水防災に関する講習会、ワークショップ、小中学生への防災教育、渚滑川流域のほか水害特性を踏まえた広報活動の実施

- 紋別市の防災訓練に協力しました
- 1日防災学校や防災授業の実施に協力しました



⇒R2年度以降も引き続き、継続実施します

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

- ・関係機関との意見交換会等を通じて情報等を共有するとともに、「タイムライン」等に基づく、自衛隊の行動を検証



協議会等に積極的に参加



関係機関との意見交換を実施



検討風景

引き続き関係機関が参加する意見交換会等を通じて情報共有等を図るとともに、必要に応じて自衛隊の行動に係る検証を実施

- ・紋別市総合防災訓練等の関係機関主催の訓練等に参加し、装備品展示、野外炊事等を通じて自衛隊の能力及び防災に対する理解を促進



装備品展示



物資輸送訓練



野外炊事

引き続き関係機関主催の訓練等に参加して自衛隊の能力及び防災に対する理解を促進

## ■迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ・ 計画的に各種訓練等を実施して練度の維持・向上を図るとともに、定期的に非常呼集訓練を実施して即動態勢を点検



偵察用ボートを使用した漕舟訓練



水防工法訓練（月ノ輪工法）



災害等に対する即動態勢を保持

引き続き**計画的に訓練を実施**するとともに、**即動態勢を保持**

- ・ 各結節を捉えた各種器材の整備（機能点検）・取扱い教育を実施して災害等の事態に万全を期すとともに、気象・天候に基づいた災害見積等を各隊員に教育



人命救助システム（車両積載時）



人命救助システム内容品（抜粋）



災害見積等を各隊員に教育

引き続き**各結節において整備（機能点検）**・**取扱い教育を実施**するとともに、**気象・天候に基づいた災害見積等を各隊員に教育**

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

○ 北見方面本部

- ・ 水難救助訓練の実施



○ 北見方面本部及び紋別警察署

- ・ 網走地方気象台と連携した教養セミナーの開催



○ 紋別警察署



(その他)

- ・ 自治体が主催する防災訓練に参加した。
- ・ 渚滑川下流地区水害タイムライン検討会に参加した。
- ・ 大雨、河川の水位、天候の見通し等について、関係機関と情報共有を図った。

⇒R2年度以降も引き続き、継続実施する

## ■大項目：迅速かつ確実な避難行動のための取組

○中項目：洪水に対してリスクの高い箇所と、避難場所・避難経路の把握

・各避難施設の看板設置状況及び状態に伴う、設置・修繕に係る見積・調整・予算要求等

⇒ 今後も継続して管理体制を維持

○中項目：避難情報・警報等をわかりやすく、適切なタイミングで確実に伝達するための取組

・内閣府発出の避難勧告に関するガイドラインの改定に伴い、紋別市地域防災計画に接続した、避難勧告等の判断・伝達マニュアルの修正・更新

⇒ 引き続き、計画の見直し等を継続して実施

・北海道開発局網走開発建設部が主催した、常呂川下流地区水害タイムライン検討会(第5回)に参加し、河川等のタイムラインに資する資料や情報を収集

⇒ 機会をとらえた水害対策に関する協議会・検討会への参加を継続

○中項目：水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

・北海道総合防災訓練に連動した紋別市防災訓練を実施し、一連の災害想定に基づき、メール・FAX・電話を併用した情報伝達及び町内会を対象とした避難訓練等を実施し、情報伝達や自助防災意識の高揚を図った。



市民主体の町内会  
単位の避難行動  
(一部地域を実施)



避難者の協力による  
物資等の搬入

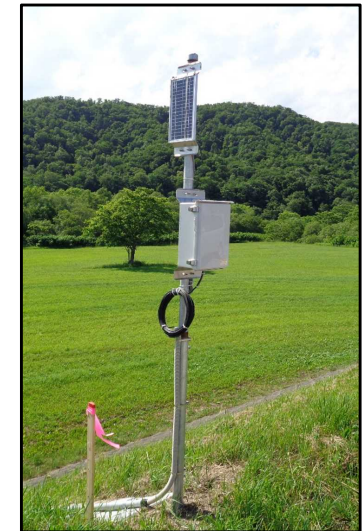
## ■大項目: 迅速かつ確実な避難行動のための取組

### ○中項目: 水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

- ・地域防災計画で示す洪水浸水想定区域内の要配慮者避難施設に対し、避難確保計画の作成を依頼し作成  
⇒ R2年度以降についても、想定最大規模の浸水被害を見据えた確認や必要な計画作成等を実施
- ・出前講座や市の広報誌等を活用し、情報伝達手段(メール@もんべつ)に関する加入を推奨  
⇒ 情報の速達手段として今後も継続して加入に係る情報を発信

### ○中項目: 水防活動に必要な情報の共有

- ・1級河川水防連絡協議会渚滑川合同巡視に参加し、網走開発建設部職員と合同で、水防資機材庫の確認、渚滑川右岸河口付近の河道掘削箇所・危機管理型水位計・河道掘削で出た残土を使用した築堤強化予定箇所(重要水防箇所)の巡視を行った。



- ・網走開発建設部と防災ヘリによる、河岸浸食・危険箇所合同調査を上空から実施し、渚滑川及び藻別川の状況について、共通認識を得た。  
⇒ 今後も機会をとらえて、情報共有の場を活用した認識の共有を図る。

## ■大項目: 効率的・効果的な排水活動のための取組

### ○中項目: 排水活動の資機材の整備

・渚滑右岸樋門と宇津々樋門において出水期前に排水ポンプを設置(10インチ水中ポンプを6台追加(計9台))し、出水期に備えた。

⇒ 引き続き排水に必要な機材の検討・整備を継続する。

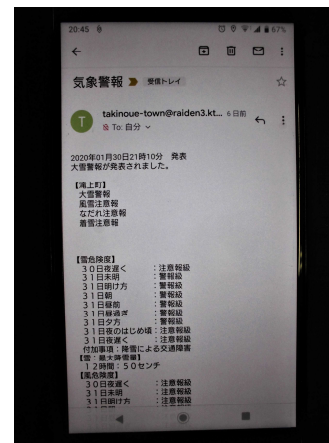
### ○中項目: 排水活動の体制強化

・排水活動に必要なポンプ排水訓練に参加し、排水活動に資する要領を練成した。

⇒ R2年度以降の訓練にも参加し、器材操作等の練度維持を図る。

## ■迅速かつ確実な避難行動のための取組

- ・町内会を中心とした自主防災組織整備の促進
- ・一斉配信システムの機能拡大(情報伝達の多重化)
- ・滝上町職員初動対応マニュアル及び避難勧告等の判断・伝達マニュアル(洪水編)の作成
- ・紋別地区消防組合と連携を図り、タイムライン作成を検討
- ・道の防災訓練に合わせて町の防災訓練を実施
- ・町管理職を対象とした、防災講話及び図上訓練を実施



## ■迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ・水害リスクの高い箇所(河川)について、町職員と消防職員が合同で巡視





## 迅速かつ確実な避難行動のための取組

### ■ 洪水に対してリスクの高い箇所と、避難場所・避難経路の把握

円滑な避難行動のため、道路管理者との連絡体制網の構築

- ・共有を図った

### ■ 避難情報、警報等をわかりやすく、適切なタイミングで確実に伝達するための取組

メール・テレビ・ラジオ・サイレン等、多様な手段を用いた避難情報発信体制の強化及び近隣住民同士での連絡体制等の人的ネットワーク(自主防災組織等)の構築

- ・紋別市と連携し防災訓練の際に避難誘導やサイレン吹鳴等の手順を再確認した
- ・滝上町と連携した取り組みを実施

氾濫発生前に避難行動を促すための情報伝達訓練を実施し、訓練を通じて避難勧告等の発令に着目したタイムラインを改良や多機関が連携したタイムラインの作成(要配慮者も考慮)

- ・防災訓練への参加や他河川タイムライン検討会を参考のため傍聴した。
- ・滝上町と連携を図り、タイムラインの作成を検討





## ■水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

町内会等による住民参加型避難訓練、水防災に関する講習会、ワークショップ、小中学生への防災教育、渚滑川流域のほか、水害特性を踏まえた広報活動を実施する

- ・防災訓練や関係機関主催の防災講習等に参加した
- ・滝上町災害対策本部訓練に参加

⇒ 迅速かつ確実な避難行動のための取組は今後も継続予定

## 迅速かつ確実な水防活動のための取組

### ■水防活動の資機材整備

上流への資機材運搬時間の短縮を図るため、水防資機材の備蓄基地等の配置検討や、資機材量及び新技術を活用した資機材導入の検討・配備

- ・消防団員用に雨衣170着購入
- ・水防資機材の整備なし
- ・消防署(紋別)では今年度消防団員用にライフジャケット95着、トランシーバー86台を購入予定であり、次年度以降も発電機・投光機・ヘルメット・ゴーグル・防塵マスクなどを購入予定
- ・滝上支署では今年度水防活動用胴付き長靴を5着購入予定





## ■水防活動に必要な情報の共有

迅速な水防活動を支援するため、水防資機材等の保有状況の情報を共有しておくとともに、定期的な資材の状態点検を行う

- ・資機材等を点検して保有情報等を共有した

毎年、重要水防箇所の見直しを行い、水防関係機関や住民が参加する水害リスクの高い箇所の共同点検を実施するとともに巡視マップの作成及び定期的な情報共有を行う

- ・関係機関と共同点検に参加
- ・水害リスクの高い箇所(河川)について、町職員と巡視を実施

## ■水防活動体制の強化

関係機関が連携した、高速な洪水流による河岸侵食をシナリオに組み込んだ、水防訓練の実施

- ・河岸侵食に関する訓練計画がなく、他機関での訓練も不参加
- ・消防組合職員水難訓練を実施





リーフレットやHPを通じ、水防活動の担い手となる消防団員の募集を行うとともに水防協力団体の募集・指定を促進する

- ・HPやイベントでの消防団員募集
- ・協力事業所の指定を行った

⇒ 迅速かつ確実な水防活動のための取組は今後も継続予定

## 効率的・効果的な排水活動のための取組

### ■排水活動の体制強化

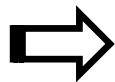
既設排水システムを関係機関と共有し、資機材搬入経路と想定排水箇所の設定を行い、排水ポンプ車等を活用した排水計画の作成

- ・資料整理への協力と共有を図った

排水ポンプ車等による関係機関同士での排水訓練の実施

- ・ポンプ排水訓練に参加

今後も継続予定

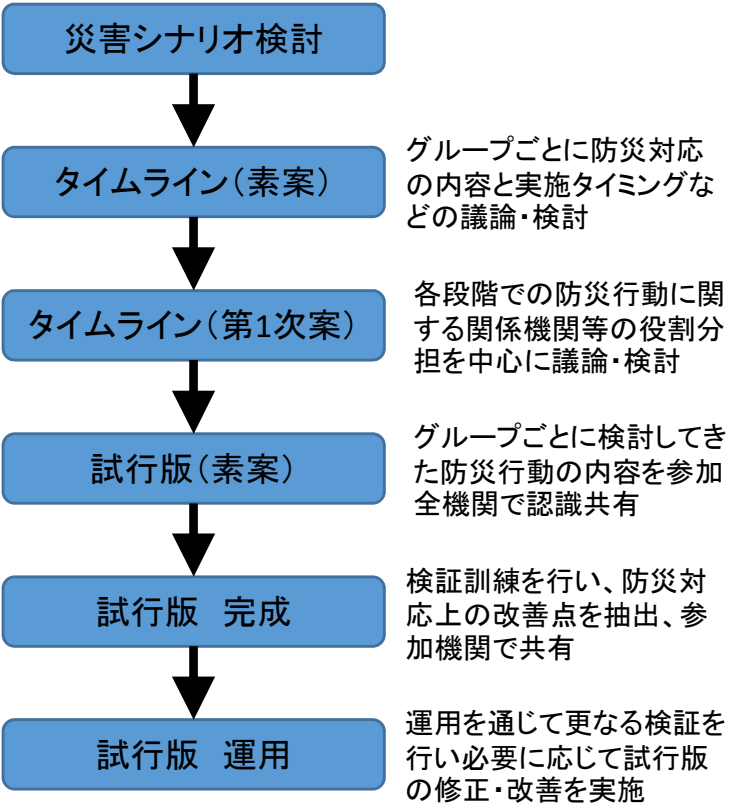


# 情報提供

# 常呂川下流地区水害タイムライン試行版の完成

- タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。
- 常呂川においては、北見市常呂自治区を中心に、平成30年7月から関係機関と連携して検討を重ね、令和元年7月「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」を策定し、北見市・オホーツク総合振興局・網走地方気象台・網走開発建設部の4機関でタイムライン運用に向けた協定を締結しました。

## <タイムライン検討の流れ>



試行版完成報告・手交  
辻直孝北見市長(左)、松尾一郎座長(右)



検証訓練の実施状況

## 参加機関

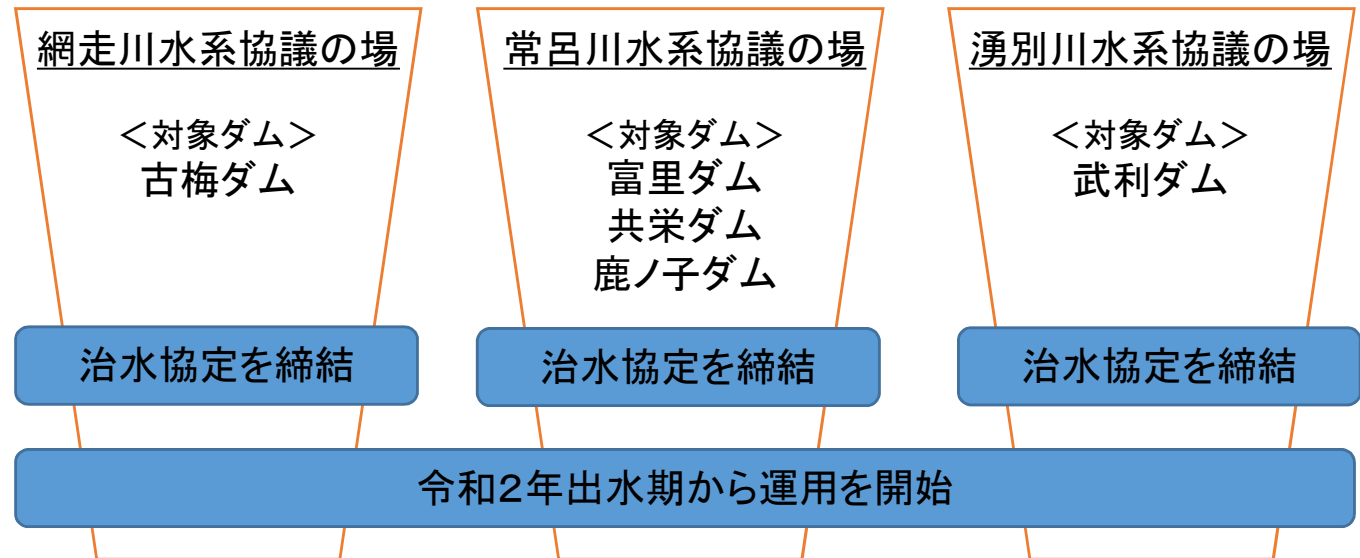
- 北見市
- 北見市常呂自治区町内会
- 陸上自衛隊
- 北海道警察
- 北見地区消防組合
- 北見市社会福祉協議会
- 北見市民生委員児童委員協議会
- 北見市教育委員会
- 北見市商工会
- 網走バス株式会社
- 北海道北見バス株式会社
- 北海道電力株式会社
- 東日本電信電話株式会社
- 常呂町農業協同組合
- 常呂漁業協同組合
- 常呂厚生病院
- 常呂町建設業協会
- 北海道オホーツク総合振興局
- 網走地方気象台
- 網走開発建設部

# 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針に基づく取組

- 水害の激甚化等を踏まえ、緊急時において既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、関係省庁の密接な連携の下、速やかに必要な措置を講じるため、「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」(令和元年12月12日 既存ダムの洪水調節に向けた検討会議)が作成された。
- 国管理の一級水系については、令和2年1月に水系毎に河川管理者、ダム管理者及び関係利水者との間で協議の場を設置し、基本方針に基づく施策について早急に検討を進め、令和2年5月に治水協定を締結、令和2年の出水期から既存ダムの洪水調節機能を強化した新たな運用を開始することとしている。

- 【基本方針の内容】
- (1) 治水協定の締結
  - (2) 河川管理者とダム管理者との間の情報網の整備
  - (3) 事前放流等に関するガイドラインの整備と操作規程等への反映
  - (4) 工程表の作成
  - (5) 予測精度向上等に向けた技術・システム開発

## 【網走開発建設部管内における一級水系の取組】



湧別川水系協議の場(第1回)開催状況

ダム名	古梅	富里	協栄	鹿ノ子	武利
水系/河川名	網走川水系 石切川	常呂川水系 仁頃川	常呂川水系 チャンホコマナイ川	常呂川水系 常呂川	湧別川水系 武利川
有効貯水容量(万m3)	323	263	38.5	3,580	50
洪水期洪水調節容量(万m3)	0	0	0	2,500	0
洪水調節可能容量(万m3)	180	7	5	464	54

# 避難の考え方(新型コロナウイルス感染症)

1. 災害が想定される地域では  
**ためらわず避難行動を**

2. 命を守るための**緊急的な**  
**避難場所**も選択肢に

3. 避難場所での  
**感染症対策の徹底**

事前に**ハザードマップ**等を確認

・浸水が想定される地域

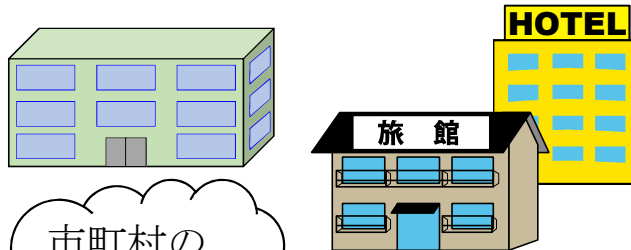


←浸水が  
想定される地域

・土砂災害が想定される区域

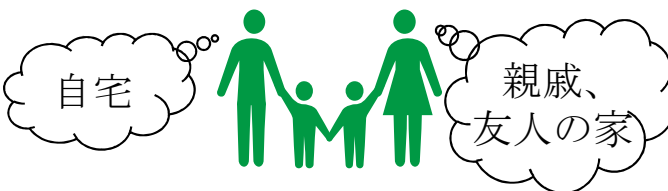


←土砂災害が  
想定される区域



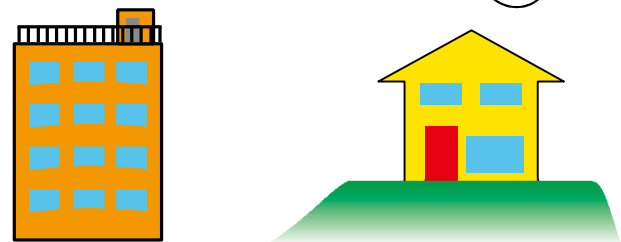
市町村の  
指定緊急  
避難場所

宿泊施設等



自宅

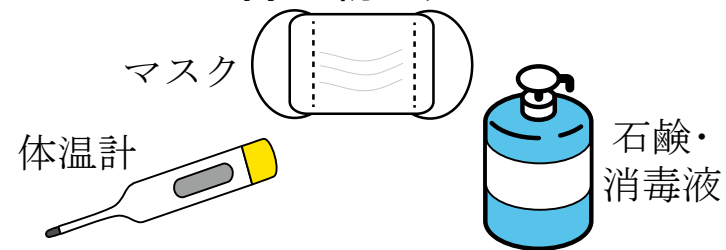
親戚、  
友人の家



※頑丈な建物の高い階や  
浸水が想定されない地域等

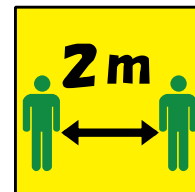
**手洗い・消毒の徹底**  
**定期的な検温・症状チェック**

✓持ち物に追加



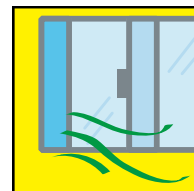
**3密を避ける**  
(密閉・密接・密集)

2 m以上の  
距離を保つ



背中  
合わせ

段ボール等  
で間仕切り



換気

・発熱等の症状がある  
人のための専用スペース

**※避難行動・避難生活に必要な物(食料(最低3日分)・衛生用品等)は、自助として各自で準備しましょう。**

参考) 内閣府政策統括官(防災担当)、消防庁、厚生労働省「避難所における新型コロナウイルス感染症への更なる対応について」令和2年4月7日、  
避難所・避難生活学会「COVID-19 禍での水害時避難所設置について」令和2年4月15日



# 今後のスケジュール（案）

令和2年 7月 9日 第6回減災対策協議会



令和3年 2月～3月頃 第10回減災対策幹事会



令和3年出水期頃までに 第7回減災対策協議会